

路面標示デザイン 書体のまとめ

路面標示において書体の選び方、書体ウエイト(太さ)の考え方のポイントです。

路面標示にはシンプルな書体で可読性が高い ゴシック体がお勧め。

情報伝達を目的とする路面標示は、読みやすさや誤読のしづらさを重視してシンプルなゴシック体を基本的な書体を選ぶことをお勧めします。また車やバイクなど走行速度が速く手前で視認する状況では、他の書体よりもゴシック体は可読性が高いです。



可読性、耐久性を考慮した書体ウエイト(太さ)を選ぶ。

路面標示は、書体ウエイト(太さ)が細すぎると耐久性が低くなり、画数が多い漢字などは太すぎると可読性が低くなる傾向となります。耐久性と可読性のバランスを考慮しながら書体ウエイトを選ぶことをお勧めします。

冬期におけるシート製品 施工上の注意点

- ◆設置路面に凍結防止剤等が残留している場合、必ず除去を行ってください。
- ◆設置路面温度が低い場合、設置路面を加熱することで、シートの接着強度が高くなります。



[発行]

サンコー企画株式会社

〒929-0447 石川県河北郡津幡町字旭山11番地2
Tel:076-289-6708(代表) Fax:076-289-7992
E-mail:sanko@sanko-kikaku.com
URL:http://www.sanko-kikaku.com

ご注文・お問い合わせ

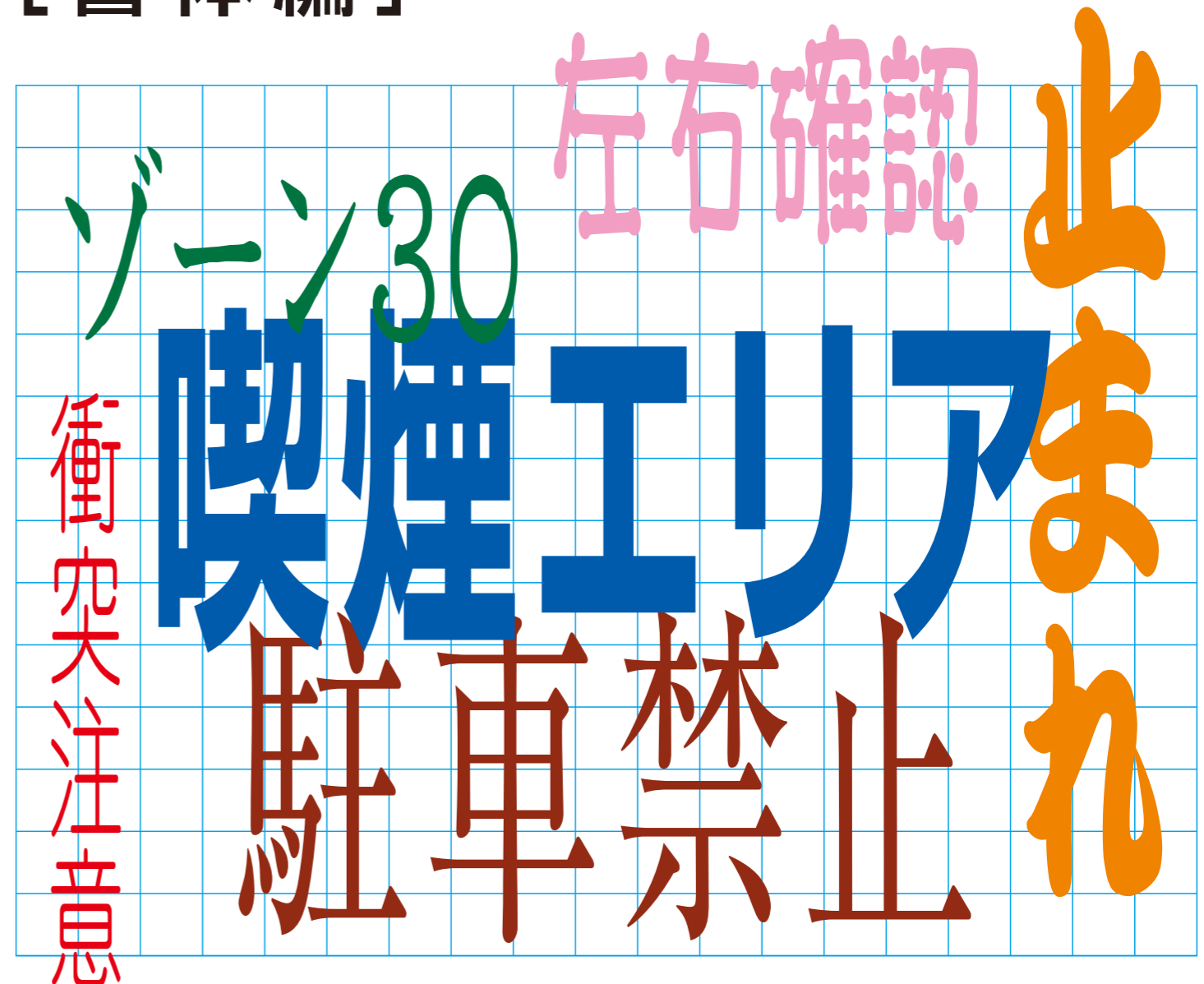
月刊 SANKO NEWS 12 2021年12月号 Vol.147

SANKO サンコー企画株式会社

FREE



路面標示デザインの考え方 [書体編]



路面標示デザインの考え方

【書体編】

※自社の屋外路面シート製品の提案実績、販売実績を参考にして作成。

2021年11月号「路面標示デザインの考え方 対象者編」に続き、今回は「路面標示デザインの考え方 書体編」をご紹介します。路面標示は、主に対象者に必要な情報を伝達するという目的で設置されます。的確に情報を伝達するには、「図や文字が認識できる。図や文字が読める。」ことが、つまり「視認性・可読性」が重要です。路面標示の「可読性」に大きな影響のある要素の一つとして「書体」があります。最適な「書体」の選び方、書体のウエイト(太さ)の考え方をご紹介しますので、路面標示デザインの書体を決める際のご参考になればと思います。

路面標示の目的

情報伝達

重要

視認性: 図や文字が認識できる
可読性: 図や文字が読める

書体と書体ウエイト(太さ)が影響

【日本語書体の種類】

明朝体

MS明朝
ヒラギノ明朝

明朝体は、横線に対して縦線が太く、横線の右端、曲り角の右肩に三角形の山(ウロコ)がある書体。

ゴシック体

MSゴシック
ヒラギノ角ゴ

ゴシック体は、横線と縦線の太さがほぼ同じで、三角形の山(ウロコ)がほとんどない書体。

筆書体

HGP行書体
教科書ICA

筆書体は、筆で書いた文字を再現したような書体で、行書体や教科書体、隷書体などが含まれる。

その他

ARマッチ体
HG創英角ポツ体

その他書体として手書き風の書体やデザイン書体、ポップ体、ロゴ体などが含まれる。

路面標示 日本語書体の選び方

路面標示の主な目的である情報伝達を考えた場合、明朝体や筆書体、その他の書体をデザインに使用することは好ましくありません。読みにくく、読み間違いも多い書体だからです。

もちろん設置目的によって、これらの書体を使う場面も出てくることはありますが、基本的にはシンプルで可読性の高いゴシック体がお勧めです。自己満足ではなく、対象者への配慮として書体を選ぶことが大切です。

追
突
注
意



明朝体の路面標示を手前から視認した場合、横線が細く可読性が低くなり、書体選択としてお勧めできない。

【書体のウエイトとは】

書体の太さを表す呼称として、よく使われるのは「ウエイト」です。書体の文字の太さは、デザインされた書体によってまちまちですが、書体開発・販売元では独自の基準を設けて、分類を分けています。

表現例として「W1・W2・W3・W4・W5・W6・W7・W8・W9・W10」、「UltraLight・ExtremeLight・Light・Regular・Medium・DemiBold・Bold・ExtremeBold・UltraBold・Heavy」「超極細・極細・細・中細・中・中太・太・特太・極太・超極太」などがあります。

モリサワ 新ゴ書体のウエイト(太さ)例 ※新ゴEL(エクストラライト)は当社に無い書体のため記載無し。

新ゴL (ライト)	新ゴR (レギュラー)	新ゴM (ミディアム)	新ゴB (ボールド)	新ゴH (ヘビーボールド)	新ゴU (ウルトラボールド)
駐	駐	駐	駐	駐	駐
細 ←					→ 太

路面標示 書体のウエイト(太さ)の選び方

基本的には太い書体は目立たせる部分、細い書体は文字のサイズが小さくても潰れにくいので、説明文などの長文や小さい文字に使うのに適しています。

漢字など、画数の多い文字は書体を太くしてしまうと、可読性が低くなることがあるので、路面標示デザインの際に、それらを考慮して書体ウエイト(太さ)を決める必要があります。



上記の文字は、同じ書体のウエイト(太さ)違いです。右の字は太く、一件目立つように見えるかもしれませんが、画数が多いため赤丸部分の空間が狭く、可読性が高いとは言えません。

左の字は細く赤丸部分の空間部も広く取ってあり、2つの文字を比較すると左の字のほうが可読性が高いと言えます。

路面標示での書体ウエイト(太さ)の選び方として、設置目的、対象(人・自転車・車)、耐久性などを考慮しつつ可読性の高い書体ウエイト(太さ)を選びましょう。

→ 裏面につづく